

研究主題 「幼児の遊びや生活における表現の活動を豊かにする指導の工夫

－幼稚園と小学校音楽科の接続を踏まえて－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

世田谷区立三島幼稚園 教諭 島崎智恵

I 研究のねらい

平成 17 年 1 月の中央教育審議会の答申では、遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行を目指し、幼稚園等施設と小学校との連続性を強化する。そして、幼児期から児童期への教育の流れを意識し、幼児教育における指導内容や方法を充実させるということを示している。

幼稚園で、幼児が様々な事物や出来事に出会い、そこから多くのものを感じ取り、豊かに表現しようとする意欲を高めることは、小学校以降の生活や学習の基礎を培う上で大切なことである。幼稚園教育は、5 領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の内容を相互に関連させ、幼稚園生活全体を通して総合的に指導を行い、豊かな表現が身に付くように指導している。この豊かな表現を小学校以降の学習に生かしていけるように、本研究では特に感性と表現に関する領域「表現」の内容に着目し、指導内容の見直し、指導の工夫を図りたい。

幼児は音楽を通じた活動において想像を巡らせ、自分の気持ちや心情を表現し、友達や周囲の事物とのかかわりや、表現し合う楽しさを味わう。このことから、幼稚園で音楽にかかわる指導を工夫し、感じ取る力を養い、豊かに表現する意欲を高めていくことで、小学校音楽科の学習の基盤につながっていくととらえた。

「小学校学習指導要領解説音楽編」では、表現の能力を身に付けるために音楽の諸要素「リズム、旋律、和声、強弱、速度、音色」などを系統的に指導することが求められている。この音楽の諸要素は、表現や鑑賞の活動の根底にかかわり、この音楽の諸要素を基に音楽を感じ取り、音楽を表現する力を付けていくものと考えられている。幼稚園でも音楽の諸要素に視点を置き、指導内容をより充実させることで、幼児の表現の活動が豊かになり「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎が培われ、小学校音楽科の学習へ生かされていくのではないかと考える。

そこで、幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」について、「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を培うために音楽の諸要素に視点を置き、2 年保育 5 歳児の指導内容を明らかにする。それとともに、その基礎を培うために、表現の活動を豊かにする指導の工夫と、教材開発を行うことを研究のねらいとした。

II 研究の内容と方法

1 上記のねらいを達成するため、仮説を立て検証する

2 年保育 5 歳児における表現の活動について、小学校音楽科の音楽の諸要素に視点を置き指導内容を明らかにし、指導の工夫や教材開発をすることで、表現の活動を豊かにすることができ、小学校音楽科の学習へつながる「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を培うことができる。

2 指導内容を明らかにし、指導の工夫、教材開発を行う

(1) 「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を以下のようにとらえ、研究を進める

本研究では、「幼児が音楽とのかかわりの中で、心を動かされたことを自分の声や身体の動き、あるいは、素材となるものを仲立ちとして生き生きと表すこと」ととらえた。

(2) 幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容と小学校音楽科の内容とのつながりを考え、指導内容を明らかにする

ここでは小学校との接続を踏まえ、低学年の指導の重点であるリズムに焦点化して述べる。

- ① 感性と表現に関する領域「表現」について、幼児の活動内容と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置いて分類し、つながりのあるものを整理した。また、小学校学習指導要領解説音楽編で幼児の活動と特につながりがあるものを線でつないだ。(補助資料①)

表1 幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容(例)と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置き分類したつながりの表

幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容(例)	小学校学習指導要領解説音楽編の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの面白さを感じる ・リズムに合わせて身体を動かす ・楽器で、いろいろなリズムを打って遊ぶ ・リズムの変化に気付く ・友達と一緒に踊る ・リズムを感じ取って歌う ・身体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを表現する ・楽器でリズムを工夫して打つ ・友達の楽器の鳴らし方に関心をもつ ・友達と簡単な分担奏を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに気を付けて模唱、模奏をする (表現(1)ア) ・リズム唱やリズム打ちをする (表現(1)イ) ・リズム譜に親しむ (表現(1)イ) ・拍の流れを感じ取って身体表現する (表現(2)イ) ・拍の流れを感じ取って演奏する (表現(2)イ) ・簡単なリズムを演奏する (表現(3)イ) ・リズム遊びを楽しむ (表現(4)ア) ・リズムをつくって表現する (表現(4)ア) ・リズムに気を付けて聴く (鑑賞(1)イ) 	リズム

※補助資料①「幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動の内容(例)と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置き分類したつながりの表」より抜粋

- ② 小学校の音楽科の諸要素の中で低学年の指導の重点であるリズムに焦点化した授業を見学し、幼稚園とのつながりを分析する。

<小学校音楽科(低学年)の授業での学習>

小学校での学習内容

- ・2拍子の流れにのり、6つのリズムパターンを言葉でふしを付けながら手拍子をし、拍子を感じ取る。
- ・6つのリズムパターンを組み合わせて4小節8拍のリズムフレーズをつくる。

<この授業の基となると考えられる幼稚園での活動(例)>

幼稚園での活動内容(例)

- ・拍の流れに合わせて手拍子をする。
- ・歌詞の言葉に合わせて手を打つ。
- ・友達と楽器で拍に合った打ち方を考えて打つ。など

- ③ ①の表(補助資料①)と②を基に幼稚園で経験させたいねらいや指導内容を精選し、指導の工夫を例示した。そして、「小学校音楽科との接続を踏まえた、幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」の指導内容表(試案)」を作成した。(補助資料②)

- ④ 幼稚園と小学校の指導内容のつながりを分析し幼稚園の指導で重視したいことを挙げた。

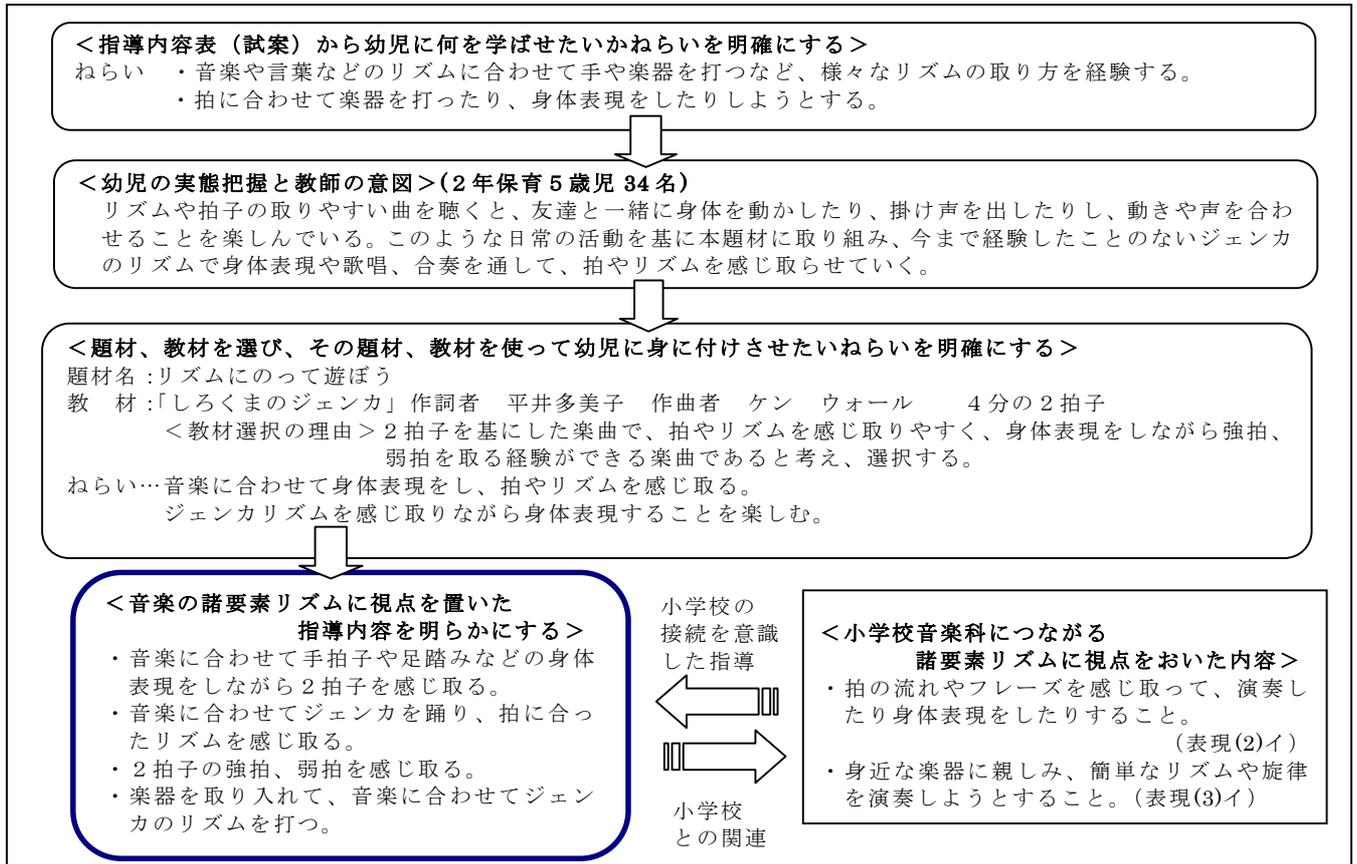
- ・幼児が自ら音楽にかかわり、リズムの楽しさや音色の美しさなど感じ取ったことを自分なりに工夫して表そうとしていることを、教師が受け止め認めることで、幼児が生き生きと表現しようとする意欲を高める。
- ・幼児が音楽から感じ取った美しい、楽しいなどの心の動きを友達や教師と共有し合うことで、幼児はより音楽に対する表現に関心を寄せ、興味を広げ感じ取る力を付けていくようにする。
- ・表現する手段として、友達と歌ったり、踊ったりできるような場や環境を用意しておくとともに、様々な楽器の扱い方を伝え提示しておくことで、自分たちで表現活動を工夫していくことができるようにする。
- ・教師が、意図的に、様々なリズムの取り方、旋律や音色の美しさ、速度の違いなど、遊びや活動を通して、幼児に気付かせる指導の工夫を行う必要がある。

音楽の諸要素リズムにおいては、幼稚園の中で身体表現をする活動を多く行い、拍を感じ取る経験や、簡単な楽曲を楽しみながら拍感を身に付ける経験を積み、豊かな表現の土台をつくるのが大切であるととらえた。検証保育を通し実践を行う。

- (3) 小学校音楽科への接続を踏まえた計画的な指導の工夫、教材開発を行う。

検証保育を行う

① 小学校では、様々な音楽の諸要素を基に、音楽の能力が身に付くように指導している。低学年の児童は、音楽に合わせて自ら体を動かすことを喜び、音楽の快いリズムに体全体で反応して音楽を楽しむ傾向がある。この特性を生かし、特にリズムに重点を置いて指導を行っている。幼稚園では、一つの楽曲でその音楽の特性を用いながら情景や季節感を味わったり、身体表現をしたりと、総合的に表現の楽しさを感じられるように指導している。今回の検証保育では小学校低学年とのつながりを踏まえ、音楽の諸要素リズムに焦点化した段階的指導を行い「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を培う指導の工夫を行った。



② 「しろくまのジェンカ」について音楽の諸要素リズムについて焦点化した指導の工夫・教材開発を行う（◎指導内容、○指導の工夫と教材開発、・幼児の姿と変容）

拍を感じ取るための指導の工夫と教材開発	
◎音楽に合わせて手拍子や歩くなどの身体表現をしながら2拍子を感じ取る。	
<p>○丸くなり友達と向き合い、互いの動きを意識して曲に合わせて足踏みをしたり、手拍子をしたりする。</p> <p>○円に沿って行進し、音楽に合わせて歩くことができるということを感じ取れるようにする。</p> <p>○拍や2拍子を感じ取れるように、友達と間隔を取り歩いたり伸び伸び身体表現したりできるように、ビニールテープで床に円を書き、立ち位置、歩く場所を分かるようにする。</p>	<p>・みんなで丸くなり、友達と向き合い友達が動いている姿を見ながら自分も同じように身体表現をすることで、自分の動きが意識化され、動き方がはっきりした。</p> <p>・円に沿って並んで行進することで、自然に「1、2、1、2」と声が出て、2拍子を感じ取れたことが把握できた。</p> <p>・友達の動作の良さを自分の動作に取り入れようとしていた。</p>
ジェンカのリズムを感じ取るための系統的な指導の工夫と教材開発	
◎音楽に合わせてジェンカを踊り、ジェンカのリズムを感じ取る。	
<p>○ジェンカのリズムを伝え、「一人で踊る」「二人で踊る」「ゲームを取り入れる」など段階を追って指導する。</p> <p>○楽しく繰り返しジェンカを踊ることができるように、ゲームを取り入れ、自然にジェンカのリズムを感じ取れるようにする。</p>	<p>・ジェンカのリズムを一人で踊っているときは、リズムが取れなかった幼児も、二人で踊ることで、友達の動きを意識し、ジェンカのリズムや、2拍子の強拍、弱拍を感じ取りやすくなる。また、ゲームを通して踊ることで、楽しく繰り返すことができ、リズムをはっきり感じ取れるようになった。</p>

2拍子の強拍、弱拍を感じ取るための指導の工夫	
◎2拍子の強拍を感じ取る	
<ul style="list-style-type: none"> ○足を出すのは「1、2、1、2」と歩いたときの1のときか2のときか考える場を作る。 ○再度音楽をかけながら、考えたり、動いたりする。 ○拍を取りやすくするために、リズム譜の拡大版を作成し、自分の動きが視覚的にとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は「1」と答える子はいても、中には「2」という子もいる。また、教師が「1かな。2かな。」と迷うと、「2かな？」と半信半疑の姿が見られた。 ・再度音楽を聞きながら「1、2、1、2」と言ったり、動いたりして、自分なりに考える時間を確保することで、強拍が「1」であることをほとんどの幼児が感じ取った。
◎2拍子の強拍、弱拍を感じ取りながら、ジェンカを踊る。	
<ul style="list-style-type: none"> ○二人組みで向き合ってジェンカを踊る。 ○歌いながらジェンカを踊る。 ○歌いながら踊る中で、歌詞の情景が思い描けるよう投げかけ、登場する動物の動きを自ら工夫して表現することにつながるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は友達と一緒にジェンカを踊ることを楽しむだけであったが、繰り返し歌を歌いながら踊ることで、自然に踊り方がはっきりし、強拍、弱拍を感じ取る姿が見られた。また、「かあさんくまのところは大きく」動き、「赤ちゃんくまのところは小さく」身体表現や歌唱の工夫が見られた。
楽器でジェンカのリズムを打ち、2拍子を基にしたリズムを感じ取るための指導の工夫	
◎楽器を取り入れて、音楽に合わせてジェンカのリズムを打つ。	
<ul style="list-style-type: none"> ○手拍子でジェンカのリズムを打つ。 ○楽器で2拍子の強弱やジェンカのリズムなどを感じ取ったことを表現する。 ○大太鼓、小太鼓、タンブリン、鈴、トライアングル、カスタネット、などの楽器を準備し、音を聞かせて、幼児がどの楽器でどの部分を打つかを選べるようにする。そのことで、自然と登場する動物を思い浮かべ、合う楽器を選んだり、表現を工夫したりすることにつながるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器でジェンカのリズムを打ちながら、「大太鼓はかあさんくまが出てくるところを打ちたい」「あかちゃんくまは小太鼓で打ちたい」など表現の工夫が生まれた。 ・楽器で合奏することで、少しずつ楽器を使った2拍子を基盤としたジェンカのリズムを打つことができるようになった。また、繰り返し行うことで、「かあさんくまのところは大きく、あかちゃんくまのところは小さく打ちたい」などの工夫も見られ、生き生きと表現するようになった。

(4) 検証保育の考察

- ① 小学校音楽科の音楽の諸要素に視点を置き、指導の工夫や教材開発を行ったことで、幼児は自然に拍や2拍子を感じ取り、2拍子の特徴である、強拍と弱拍を意識した表現を自ら行う姿へとつながった。
- ② 幼児が自ら身体表現をしたくなるジェンカのリズムを取り入れたことで、幼児は意欲をもち活動に参加し、自然に2拍子を基にしたリズムを感じ取り、生き生きと表現する姿につながった。
- ③ 音楽の諸要素のリズムに視点を置き、繰り返し指導を進めることで、合奏でも、2拍子を感じ取ることを基に、登場する動物の動きを思い描いて楽器を選んだり、工夫して演奏したりするなど音楽表現の活動が豊かになる姿が見られた。
- ④ ほとんどの幼児はジェンカのリズムを感じ取っていたが、まだ感じ取れていない幼児には、個別の指導や繰り返し経験できるような指導上の配慮が必要である。

Ⅲ 研究の結果と考察

「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を培うために音楽の諸要素を視点に2年保育5歳児の指導内容を見直した。そのことで、ねらいや、教師の働き掛けが明確になった。

2年保育5歳児の指導内容を明確にし、小学校音楽科の音楽の諸要素を意識して教師が指導の工夫、教材開発を行うことで、幼児は「音楽を感じ取り、表現すること」の基礎を培い、表現の活動を豊かにし、小学校音楽科への基盤となる経験を積み重ねることができると考えられる。

Ⅳ 今後の課題

今後、2年保育5歳児の指導内容の指導の時期を明確にし、年間で計画的に指導できるようにするとともに、指導の工夫をより充実させる。また、2年保育4歳児における指導内容を明確にし、幼稚園生活2年間で計画的に指導してけるようにする。

表1 幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容(例)

と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置き分類したつながりの表

感性と表現に関する領域「表現」について、幼児の活動内容と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置いて分類し、つながりのあるものを整理した。また、小学校学習指導要領解説音楽編で幼児の活動と特につなぐものがあるものを線でつないだ。

	幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容(例)	小学校学習指導要領解説音楽編の内容	
リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの面白さを感じる ・リズムに合わせて身体を動かす ・楽器で、いろいろなリズムを打って遊ぶ ・リズムの変化に気付く ・友達と一緒に踊る ・リズムを感じ取って歌う ・身体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを表現する ・楽器でリズムを工夫して打つ ・友達の楽器の鳴らし方に関心をもつ ・友達と簡単な分担奏を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに気を付けて模唱、模奏をする (表現(1)ア) ・リズム唱やリズム打ちをする (表現(1)イ) ・リズム譜に親しむ (表現(1)イ) ・拍の流れを感じ取って身体表現する (表現(2)イ) ・拍の流れを感じ取って演奏する (表現(2)イ) ・簡単なリズムを演奏する (表現(3)イ) ・リズム遊びを楽しむ (表現(4)ア) ・リズムをつくって表現する (表現(4)ア) ・リズムに気を付けて聴く (鑑賞(1)イ) 	リズム
旋律	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルやペープサートを見ながら歌を歌う ・音楽を聴きながら踊る ・教師や友達とイメージを思い描いて一緒に歌を歌う ・季節感を感じて歌う ・簡単な替え歌づくりをする ・いろいろな音楽を聴き比べて、遊びの雰囲気、BGMなどに合うものを選ぶ ・旋律楽器に興味をもち、音を出す、簡単な旋律を弾く(木琴・鉄琴・リングベルなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を表す情景や気持ちを想像して表現する (表現(2)ア) ・音程に気を付けて模唱、模奏をする (表現(1)ア) ・フレーズを感じ取って演奏したり、身体表現をしたりする (表現(2)イ) ・自分の歌声及び発音に気をつけて歌う (表現(3)ア) ・ふし遊び(言葉によるふし遊び、声や身近な旋律楽器によるふし遊び)を楽しみ表現する (表現(4)ア) ・楽曲の気分を感じ取って聴く (鑑賞(1)ア) ・旋律に気を付けて聴く (鑑賞(1)イ) 	旋律
音色	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音に興味をもつ ・楽器を打つ(音の違いや美しさに気付く) ・楽器の音の出し方を工夫する ・自然の音を聞く (虫の音・風の音・雨の音) ・音を作る ・音を探す(マラカス作りをしたり、いろいろな物の音をたたいたり、はじいたりして音の違いを楽しむなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音、伴奏の響きを聴いて演奏する (表現(2)ウ) ・即興的に音を探して表現し、音遊びを楽しむ (表現(4)イ) ・楽器の音色に気を付けて聴く (鑑賞(1)ウ) 	音色
速度	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて歩く・走る(行進する・駆け足をする) ・曲の速さに合わせて身体表現をする(「早い曲…ありのようにちょこちょこ走る」「ゆっくりした曲・くまやぞうのようになしのし歩くなど」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・速度に気を付けて模唱、模奏をする (表現(1)ア) ・速さに気を付けて聴く (鑑賞(1)イ) 	速度

(強弱、和声については、小学校第3学年及び4学年以上の学年に出てくるため、ここでは挙げないこととする。)

「幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容(例)と小学校音楽科の内容を音楽の諸要素に視点を置き分類したつながりの表」の幼児の活動内容(例)を基に「小学校音楽科との接続を踏まえた、幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」の指導内容表(試案)」を作成した。(補助資料②～④)

2年保育5歳児 小学校音楽科との接続を踏まえた、幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」の指導内容表（試案）

この表は、幼稚園教育要領の感性と表現に関する領域「表現」における幼児の活動内容と小学校学習指導要領解説音楽編の内容とのつながり踏まえ、2年保育5歳児の一年間において育てたい「ねらい」、それに基づいた「指導内容」「指導の工夫（教材例）」について、小学校音楽科の音楽の諸要素に分けて明らかにした。幼稚園の年間指導計画に沿って表現の活動を行う際、2年保育4歳児での経験してきたことを基にして幼児の実態を把握しながら、音楽の諸要素に視点を置き、幼児に経験させたいねらいや内容を再考したり、教材を選ぶ際の参考なるようにと考えた。幼児の実態に合わせて教材を選択したり、繰り返し活動を行ったりしていくことが効果的である。

また、音楽の諸要素は、「強弱」「和声」については小学校3学年及び4学年以上の学年に出てくるため、「リズム」「旋律」「音色」「速度」の4つの音楽の諸要素にしぼって取りあげている。

	ねらい	指導内容	指導の工夫（教材例）
	<p><リズム></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽や言葉などのリズムに合わせて手や楽器を打つなどの、様々なリズムの取り方を体験する。 	<p><リズム></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて、手拍子や、言葉に合わせて手を打つ。 付点のリズムや3連符に気を付けて歌う。 歌を歌いながら、部分的に決まったところで手拍子を入れ、リズムが合うことを楽しむ。 軽快ではっきりとしたリズムの曲を踊ったり、「ジェンカ」を踊り特有のリズムを感じたりする。（強拍、弱拍、アクセントなどを感じる） 	<p><リズム></p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器（タンブリン、カスタネット、ずず、トライアングルなど）や手拍子でリズムを打ったり、言葉のリズムに合わせて打ったりする経験を重ねる。（「ホ・ホ・ホ」「うちゅうせんとうた」「こおろぎ」） スキップをしたり、歌ったりして付点や3連符のリズムを感じるようにする。（「みどりのマーチ」「ぼかぼかてくてく」「おんまはみんな」「とんとんともち」「そうだったらいいのにな」「世界中のこどもたちが」「動物園へいこう」） 部分的に手拍子を合わせるところがある曲を選び、友達と動きを合わせる楽しさを感じながらリズムをとる経験ができるようにする。（「楽しいね」「てをたたきましょう」「しあわせならてをたたこう」「やきいもグーチーパー」） いろいろなリズムパターンを取り入れ、身体表現をして楽しむ。（「しろくまのジェンカ」）
リズム	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いたり歌ったりしながら歌の歌詞のリズムを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いたり、歌を歌ったりして、言葉のリズムに興味をもつ。 ロザさんだり繰り返し歌ったりして言葉のリズムを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の言葉に合わせて手を打ったり、手で打ったリズムに言葉を当てはめたりして、リズム遊びを楽しめるようにする。 言葉のリズムに合う他の言葉を探したり、言葉遊びをしたりして遊ぶ。
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて自分なりに試したり工夫したりしていろいろなリズムを表現する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手を打ったり、楽器を打ったり踊ったりして、音楽の拍子に合わせて、自分たちでリズムをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数人の友達と一緒に歌ったり、踊ったり、合奏したりすることを好きな遊びの中で楽しめるようにし、音楽に合わせて踊り方や、拍子の取り方等を考えられるようにする。（「しろくまのジェンカ」「にんげんっていいな」）
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の情景や様子に合ったリズムの取り方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のリズムを感じ取り、替え歌をつくる。 友達と楽器遊びをする中で、いろいろな打ち方を工夫したり友達の打ち方を取り入れたりする。 音楽に合わせて身体表現をしながらリズムを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の拍子に合わせて、いろいろな言葉を当てはめ、替え歌遊びをする。 友達の演奏の様子がよく見えるように並び、拍やリズムを合わせられるようにして自分の表現に生かしていけるようにする。 拍やリズムが取りやすい曲をかけて、身体表現をする（「あつまれジャンケンマン」「かいぞくたいそう」「にんじゃでござる」「ラウンドチェーン」）
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせていろいろなリズムの取り方を数人の友達と工夫して合奏したり身体表現をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の合奏の分担の位置が分かり、友達の分担部分を見たり、聴いたりしながら打つ。 音楽に合った合奏の仕方や踊り方を考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の打つ場所が分かり自分の打つ場所を理解して手や楽器を打てるよう、友達の様子をよく見るように促す。（「さんぼ」「ドレミのうた」「クシコスポスト」） それぞれの表現を認めながら、いろいろな動きを提案したり、一緒に楽しんだりする。
	<p><拍></p> <ul style="list-style-type: none"> 2拍子、4拍子だけでなく、3拍子の曲を聴き、雰囲気の違いを感じ取る。 	<p><拍></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて歩く。 音楽に合わせて拍打ちをする。 いろいろな拍子の曲をかけて、その楽しさや雰囲気の違いを感じ取る。 	<p><拍></p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな音楽をかけて歩く。 言葉を聴き、拍に合わせて楽器を打ったり、身体表現をしたりする。 音楽や言葉のふしに合わせて身体表現をし、拍を取れるようにする。（「しろくまのジェンカ」「なべなべそこぬけ」「アルプス一万尺」「山のワルツ」）

	ねらい	指導内容	指導の工夫（教材例）
リズム	<ul style="list-style-type: none"> 拍に合わせて楽器を打ったり、身体表現をしたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の拍に合わせて楽器を打つ。 音楽に合わせて歩いたり、身体表現をしたりする中で、拍を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで楽器の打ち方を試したり、合奏の仕方を考えたりする。学級全体で取り組んだ時うまくできなかったことを自分なりに挑戦して取り組んだりできるように幼稚園で経験してきた楽器（大太鼓、小太鼓、ウッドブロック、木琴、リングベル、タンブリン、カスタネット、トライアングル、すず、マラカスなど）を保育室に環境として設定しておく。（「ガボット」「パレード」「かっこうワルツ」） ゲーム（椅子取りゲームやジャンケン汽車など）などで遊びながら曲に合わせて歩き拍を感じ取れるようにする。また、歌を歌いながら縄跳びをして遊び、その中で拍を感じ取れるようにする。（「さんぽ」「天国と地獄」「大波小波」「郵便屋さん」「くまさんくまさん」）
	<ul style="list-style-type: none"> 歌に合わせていろいろな表現遊びをしながら拍を感じ取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな伝承遊びを楽しみ、歌いながら歩いたり、ボールをついたり、なわとびをしたりして拍を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝承遊びをして歌ったり、歩いたりする中で拍を感じられるようにする。（「はないちもんめ」「あぶくたった」「ことしのぼたん」「あんたがたどこさ」「大波小波」「郵便屋さん」）
旋律	<p><旋律></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の情景を思い描いて歌う。 	<p><旋律></p> <ul style="list-style-type: none"> ストーリー性のある歌を歌い、情景を思い浮かべて歌う。（ペープサートやパネルシアターなどを動かしながら） 経験したことを思い出し、情景を思い浮かべて歌う。 	<p><旋律></p> <ul style="list-style-type: none"> ペープサートやパネルシアターを用いて、歌詞のストーリーが分かり、話の世界を楽しみながら歌えるようにする。（「あめふりくまのこ」「とんでったバナナ」「はたけのポルカ」「あわてんぼうのサンタクロース」） 経験したことを思い出し、友達と話をすることで、情景を思い浮かべて歌えるようにする。（「キャンプだホイ」「動物園へいこう」「バスごっこ」）
	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の意味を理解して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情景を思い描き歌詞の意味が分かって歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真、絵本、ビデオ教材などを通し、歌詞のイメージを共通にして歌う。（「空にらくがきかきたいな」「しましまグルグル」）
	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の意味を理解して、心を込めて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌の歌詞の意味を考えたり友達への思いを考えたりして心を込めて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での思い出を話し合い、歌の歌詞の意味を感じたり、友達への思いを感じたりして歌う。（「ぼくたちのうた」「ともだち賛歌」「思い出のアルバム」「さよならぼくたちのほいくえん（ようちえん）」「おおきいき」）
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の雰囲気を感じて幼児なりに気持ちを込めて歌ったり合奏したりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の美しさや曲の雰囲気を感じたり、友達の歌や演奏を聴いたりしながら歌や合奏、身体表現をする。 季節に合った歌を歌い季節を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の美しい音楽を選び、聴く機会を設ける。 季節に合った曲を選び、外で歌ったり、季節に合った花や物の前で歌ったりする。また、自然物など実物を見て歌い、季節感を感じられるようにする。（「サンサンサン」「こいのぼり」「たなぼたさま」「ぼくのミックスジュース」「とまと」「おぼけなんてないさ」「うみ」「もみじ」「きのこ」「小さい秋」「やきいもグーチーパー」「かぜもゆきもともだちだ」「うれしいひなまつり」）
	<ul style="list-style-type: none"> 歌ったり、合奏したりしながら、旋律の美しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と曲に合わせて部分的に旋律を楽器で演奏する。（リングベル・木琴・鉄筋など） 旋律を聴き、その雰囲気を感知取り、自由に言葉を付けて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 音階が分かりやすい曲を選び、旋律楽器で曲の一部分を演奏できるようにする。（「ドレミのうた」「ガボット」） 旋律を聴き、それに合わせて言葉を当てはめて歌ったり、替え歌をつくったりする。
<ul style="list-style-type: none"> 音楽を聴いて、ごっこ遊びや遊びのBGM、効果音などに合う曲を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇などのストーリーの雰囲気に合った曲を選んでかける。（子ども会の劇のシーンに合う曲） 劇などのストーリーに合わせて簡単な旋律をつくり、歌つくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話や場面に合った音楽を選べるように、カセットテープに楽曲を入れて、自由に選んでかけられるようにしておく。（「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「シンコペイティッド・クロック」） 今までの歌った楽曲の一部分や教師の提案した旋律を基に、歌詞をつけて表現できるようにする。 	

	ねらい	指導内容	指導の工夫（教材例）
旋律	<p><フレーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> 掛け合いの歌などで曲のフレーズを感じる。 	<p><フレーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> 応答歌、輪唱などを歌う。 	<p><フレーズ></p> <ul style="list-style-type: none"> 掛け合いをして歌う楽しさが感じられるように、「教師とみんな」で掛け合いの歌を歌ったり、ピアノや範唱を聴かせたりしながら歌う。慣れてきたら、「教師とみんな」だけでなく、「グループとグループ」「グループとみんな」などを応答性のある歌を歌う経験を重ねる。（「かえるのうた」「やまびこさん」「もりのくまさん」「おおきなうた」「しずかなこはん」「おおきなくりのきのしたで」） 伝承遊びの中で掛け合いをし、言葉のつながりやを理解して歌ったり動いたりする。（「はないちもんめ」「ことしのぼたん」「うしろのしょうめんだあれ」）
	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の言葉のフレーズを感じて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の意味を考えて、言葉をつなげて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい楽器の扱い方を知らせ、保育室に設定し、音色を楽しんだり、美しい音が出るように工夫したりできるようにする。 楽器を打ちながら音をよく聴くように促し、美しい音が出せるよう意識をもてるようにする。また、いろいろな楽器の音を楽しんだり、美しい音が出るように楽器の打ち方を試したりできるように楽器を保育室に設定しておく。 音探しや音当てゲームなどを通して、音に対する興味をもてるようにする。（楽器、様々な音の入った効果音などのカセットテープ）また、缶、空き容器、ビーズ、箱、小石、砂、ボタンなど様々な素材を出し音具を作り、音の違いを感じたり、自分の好きな音を工夫して作ったりする。（マラカス、太鼓作りなど） 楽器の音をよく聴かせ、その響きの特色を感じて曲に合った楽器を選べる機会を設ける。
音色	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな楽器の音色の美しさ、響きの違いを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な楽器の音色に興味をもち親しむ。 美しい音を鳴らそうと工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな物を組み合わせて、考えたり、試したりしながら音の変化を楽しむ。 音楽の雰囲気合った楽器を選んで演奏する。
	<ul style="list-style-type: none"> イメージに合った音を探したり、素材や物の音の違いに気付いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇遊びの中で「お姫様が登場するところ」「海賊が出てくるところ」などシーンに合う擬音を考えて楽器の音を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな楽器や様々な効果音を入れておいたカセットテープを準備しておき、シーンや足音などに合う楽器や音を自分たちで選んで遊べるようにする。（雨の音、鳥の声、宇宙船の発射音などの様々な効果音） 雨の降っている時に耳を澄ませたり、虫取りなどをして虫の音に気付くようにしたりする。
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽や歌詞の情景に合った楽器を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨音や鳥の声など自然の音や様々な音に興味をもって聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩く、足踏みなどをするなどし、歩く速度に合うことを感じ取れるようにする。（「さんぽ」「ぼかぼかてくてく」） 様々な速度の曲をカセットに録音して用意しておき、幼児が踊るのに合う曲を自分で選ぶことができるようにする。（「山のワルツ」「ハイホー」） いろいろな速度の曲をカセットに入れて用意しておき、遊びの内容によって合う速度の曲を選んでかける。（「天国と地獄」「クシコスポスト」「くるみ割り人形」） いろいろな速度の曲で歩いたり、走ったりする。 ゆっくりした曲、速い曲など様々な曲を歌ったり、合奏したりし、その曲をよく聴いて合わせて表現できるようにする。（「山のワルツ」「かぜもゆきもともだちだ」）
	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や響きを知り、曲や劇などの場面に合った効果音を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりして曲の速さを感じる。 踊るのにふさわしい速さの曲を感じて選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> リレーごっこなどで速い曲を選んでかけたり、ごっこ遊びでゆっくりした曲を選んでかけたりする。 音楽に合わせて行進したり、駆け足をしたりする。 音楽の速度を感じて、それに合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をする。
	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなものの音（自然の音、物音など）に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりして曲の速さを感じる。 踊るのにふさわしい速さの曲を感じて選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりして曲の速さを感じる。 踊るのにふさわしい速さの曲を感じて選ぶ。
速度	<ul style="list-style-type: none"> 歩く速度、踊る速度などを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりして曲の速さを感じる。 踊るのにふさわしい速さの曲を感じて選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩く、足踏みなどをするなどし、歩く速度に合うことを感じ取れるようにする。（「さんぽ」「ぼかぼかてくてく」） 様々な速度の曲をカセットに録音して用意しておき、幼児が踊るのに合う曲を自分で選ぶことができるようにする。（「山のワルツ」「ハイホー」） いろいろな速度の曲をカセットに入れて用意しておき、遊びの内容によって合う速度の曲を選んでかける。（「天国と地獄」「クシコスポスト」「くるみ割り人形」） いろいろな速度の曲で歩いたり、走ったりする。 ゆっくりした曲、速い曲など様々な曲を歌ったり、合奏したりし、その曲をよく聴いて合わせて表現できるようにする。（「山のワルツ」「かぜもゆきもともだちだ」）
	<ul style="list-style-type: none"> 行進する、かけ足をするのにちょうどよい速度を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> リレーごっこなどで速い曲を選んでかけたり、ごっこ遊びでゆっくりした曲を選んでかけたりする。 音楽に合わせて行進したり、駆け足をしたりする。 音楽の速度を感じて、それに合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩く、足踏みなどをするなどし、歩く速度に合うことを感じ取れるようにする。（「さんぽ」「ぼかぼかてくてく」） 様々な速度の曲をカセットに録音して用意しておき、幼児が踊るのに合う曲を自分で選ぶことができるようにする。（「山のワルツ」「ハイホー」） いろいろな速度の曲をカセットに入れて用意しておき、遊びの内容によって合う速度の曲を選んでかける。（「天国と地獄」「クシコスポスト」「くるみ割り人形」） いろいろな速度の曲で歩いたり、走ったりする。 ゆっくりした曲、速い曲など様々な曲を歌ったり、合奏したりし、その曲をよく聴いて合わせて表現できるようにする。（「山のワルツ」「かぜもゆきもともだちだ」）
	<ul style="list-style-type: none"> 曲の速度に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて歌ったり、合奏したり、身体表現をしたりして曲の速さを感じる。 踊るのにふさわしい速さの曲を感じて選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩く、足踏みなどをするなどし、歩く速度に合うことを感じ取れるようにする。（「さんぽ」「ぼかぼかてくてく」） 様々な速度の曲をカセットに録音して用意しておき、幼児が踊るのに合う曲を自分で選ぶことができるようにする。（「山のワルツ」「ハイホー」） いろいろな速度の曲をカセットに入れて用意しておき、遊びの内容によって合う速度の曲を選んでかける。（「天国と地獄」「クシコスポスト」「くるみ割り人形」） いろいろな速度の曲で歩いたり、走ったりする。 ゆっくりした曲、速い曲など様々な曲を歌ったり、合奏したりし、その曲をよく聴いて合わせて表現できるようにする。（「山のワルツ」「かぜもゆきもともだちだ」）